

カメル小学校と日本のつながり

在ナミビア日本国大使館

ナミビア北西部の町オプウォにあるカメル小学校からは子ども達が、日本語で元気に「おはようございます」という声が聞こえてきます。

カメル小学校と日本のつながりは、2012年度の草の根・人間の安全保障無償資金協力による実験室建設から始まり、2014年には青年海外協力隊の派遣も開始されました。

2016年から2018年にかけて同校で活動していた山本由紀子隊員（小学校教育）は、担当していた芸術と算数の授業で子ども達の主体性や創造性を育んだほか、放課後に日本文化の体験活動や日本の子ども達との交流活動も行いました。その一例が、Japan Art Mile（ジャパンアートマイル）という共同学習プロジェクトへの参加です。

このプロジェクトでは、兵庫県赤穂市の原小学校と互いの伝統・文化について学び、動画を通して交流し、調べたことを発表し合いました。そして、プロジェクトのまとめとして一枚の壁画を制作しました。まず原小学校の子ども達が半分描き、カメル小学校に送付し、到着した壁画の残り半分をカメル小学校が描きあげました。一本の木に広がる様々な絵は「私達は皆美しい伝統・文化を持っている」ことを表しています。完成した壁画は日本に返送され、東京オリンピックの会場をはじめとする様々な場所に展示される予定です。子ども達は、活動を通して日本に対して関心を持つとともに、自身の伝統・文化に改めて誇りを感じることができ、「絵を通して世界中の人に私達のことを知ってもらえるなんてワクワク！」と言っています。

カメル小学校の子ども達やオプウォの人々にとって、日本はとても身近な国になっています。

(了)